

## I. 評価の視点を踏まえた授業の工夫

- ① 1人1台端末を活用し、自分の考えを表現できるようにする。
- ② 他者の目線に立って話し合いを進めることで、多面的・多角的な考え方ができるようにする。

## II. 学習指導案

1. 日時 : 〇〇〇〇 (令和〇〇) 年 〇〇月〇〇日 (〇) 第〇校時
2. 学級 : 第2学年〇組 (計〇〇名)
3. 主題名 : 法やルールはなぜ必要 C- (10) 遵法精神、公德心
4. ねらい : 法やきまりの意義を理解し、それらを進んで守るとともに、そのよりよい在り方について考え、自他の権利を大切にし、義務を果たして、規律ある安定した社会の実現に努めようとする態度を育てる。
5. 教材名 : 「ごみ収集場所をどこに」(学研教育みらい「明日への扉」2年)
6. 主題設定の理由

## (1) 価値について

社会があればそこには何らかの「法」や「きまり」があり、その法やきまりによって集団に秩序を与え、摩擦を最小限にすることができる。しかし、自らの利益を求めることでぶつかり合い対立することで集合のまとまりがなくなる。そうならないために社会の秩序と規律を守ることによって、個人の自由が保障されるということを理解することが大切である。法やきまりについては、その遵守とともに一人一人が当事者として関心をもつことが大切であり、適正な手続きを経てこれらを変えることを含め、その在り方について考えることが必要である。

## (2) 生徒の実態について

入学して間もない時期には法やきまりに従えばそれでよいと考え「ルールだから守る」と法やきまりを他律的にとらえる生徒も多い。しかし、学年が上がるにつれて法やきまりについてその意義を一層理解することができるようになる半面、法やきまりは自分たちを拘束するものとして反発したり、自分の権利は主張するものの、自分の果たさなければいけない義務をなおざりにしたりする傾向もみられる。そのため、法やきまりの他律的なとらえ方を越えて「尊重したいから守る」という自律的な捉え方ができるようになるため、遵法精神の中に含まれる人の心情を想像できる思いやりの心が含まれていることに気付かせることが重要である。

## (3) 教材について

主人公の朝子の祖父は町内会長をしており、その祖父が、町内会のごみ収集場所について思い悩む。町内で間違えてごみ捨ての曜日を間違えてしまったことをきっかけに、ごみ収集場所について住民たちが各々の立場で自分の主張をしてしまったことで、まとまる気配が見られない。朝子はきまりを守らなかった人に罰を与えるのがよいのではないかと主張するが、祖父から「安易ではないか。」と言われ、きまりについて深く考える。

## 7. 教材分析

場面 (話のすじ)	登場人物の心の動き	気付かせたいこと 考えさせたいこと
朝子が町内のきまりに悩む祖父の話を聞く。	祖父は誰かの意見だけを聞き入れることはできず、みんなが納得できるような方法を考えたい。	・祖父は町内の人々が納得できるような案を立てたいが、それは簡単に出るようなものではないと気付かせる。

山村さん・太田さん・川上さん・田中さん・不動産屋のそれぞれの意見を聞き祖父の悩みを一緒に考える。	それぞれの立場で話をしているのを聞き、朝子は「自分には解決できそうにないことだな。」と感じる。	・自分たちの要求だけを求めてしまうと、みんなが納得できるきまりを作ることが難しいことに気付かせる。
きまりを守れない人には罰を与えることを提案する。	きまりは守らなければいけない「縛るためのもの」だと考える朝子。	・きまりを守らせるには罰ではなく、一人一人が守ろうと進んで考えなければいけないということに気付かせる。
祖父から罰を与えるというのは安易すぎると否定される。	改めてきまりを作ったり、守ってもらったりすることは難しいことだと感じる。	・罰を作ってしまうと、罰を回避するために守るということになってしまうので、進んで守れるように考えさせたい。

## 8. 主体的・対話的で深い学びにせまるための授業の工夫

### (1) 1人1台端末を活用し、自分の考えを表現できるようにする

これまで、話し合いの内容を記録するためにホワイトボード等を使用することはよくあったが、ホワイトボードを使用すると生徒たちは正しいと思う意見のみを残してそれ以外を消してしまう傾向にある。そこで、今回はその代わりとして、Google Jamboardを使うということを想定して、付箋に意見を書いて貼るという手法を用いる。これにより、生徒の話し合いの様子やその時の気持ち、意見を最後まで記録し、残せるようにする。(Google jamboard はグループでの意見交換や、手書きでの表現などに使えるデジタルホワイトボードです。複数で編集でき、付箋機能や画像の貼り付けにも対応しています。)

### (2) 他者の目線に立って話し合いを進めることで、多面的な目線をもてるようにする

道徳科において必要な多面的・多角的な視点から考え議論するという力を養うために、実際にその人になったと仮定し、話し合いをする。問題点に関して深く考えさせることもでき、客観的な一般論にならず、問題点を解決することや道徳的価値を実現することが難しいことを実感を伴って理解できるのではないかと考える。

## 9. 本時の評価の視点

**視点1-①** 複数の道徳的価値の対立が生じる場面において取り得る行動を多面的・多角的に考えようとしていることに着目する。

**視点2-⑦** 道徳的価値の実現の難しさを自分のこととして捉え、考えようとしていることに着目する。

## 10. 展開

段階	学習活動	予想される生徒の発言や考え	指導上の留意点 (評価にかかわる点は☆)
導入	(1) 意見が異なるときの対処法について考える。 一人一人の意見が異なるとき、どのように解決すればよいのだろうか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・お互いに譲り合う。</li> <li>・お互いの意見を尊重する。</li> <li>・相手の気持ちになって考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ここでは模範的な意見が出てきやすいので、後ほど実際に自分の身に降りかかるときに同じように思えるかを考えやすいように板書として残しておくようにする。</li> </ul>

<p>展開</p>	<p>(2) 教師の範読を聞く。</p> <p>(3) それぞれの立場に立って話し合いをする。</p> <p>誰の言っている意見が一番共感できるだろうか。</p>	<p>不動産屋 まだ売れていない 所の前にゴミ捨てる場所がないと困る!!</p> <p>山村さん ごみが増えるといっても大したことないんだから変える必要はない</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>川上さん →自分の家の前に置かれるのは誰だって嫌なのでわかる。</li> <li>山村さん →新居を買う前の段階でわかっていたら買わなかったかもしれない。</li> <li>太田さん →お店の前は清潔感に関わるので、無理なのは共感できる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>誰がどの意見なのかをわかりやすくするため、色画用紙にその人の意見を書き、分かりやすくする。</li> <li>自分自身がどの意見に近いのかを考えることで、この問題について自分自身が当事者であるという意識をもたせるようにする。</li> <li>客観的な立場で見えてしまっている場合は自分の家の前にゴミ捨て場ができるというイメージをさせて当事者意識をもたせる。</li> </ul>
<p>展開</p>	<p>話し合いの際「本当に自分の家の前にゴミ捨て場ができる」という実感を持たせるために、実際の教室などの状況に置き換え、ごみ箱が自分の前に置かれることになったらなど、想定しやすくする。</p> <p>それぞれの立場になってごみ収集場所について話し合いをしてみよう。</p> <p>様々な立場に立ってみたときに、気付いたことはどのようなことがあるだろうか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の都合だけを押し通すと話はまとまらない。</li> <li>お互いが適度に譲り合わない最終的には決まらない。</li> <li>相手のことを考えないといけない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>できる限り最初に「共感できる」と答えた人ではない視点で考えることで、自分の立場以外の視点をもてるようにする。</li> <li>☆様々な立場に立ってほかの人の視点から考えようとしている。(視点1-①)</li> <li>初めから分かっていたはずの「相手の気持ちを考えないと話はまとまらない」ということに改めて気付かせる。</li> </ul> <p>自分の考えだけでなく、ほかの人の立場に立って考えることで、客観的に物事を捉える難しさに気づき、解決のために何が必要かを考えることができているかを見取る。</p>

	<p>中心発問</p> <p>どのようにすれば、みんなが納得できるような形にできるだろうか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・きまりを作るしかない。</li> <li>・誰かが折れてあきらめるしかない。</li> </ul>	
		<p>誰かが引き受けなければいけない中で、家の前にゴミ捨て場ができてしまった人も「どのようにすれば、納得がいくか」という流れにする。</p> <p>《補助発問以後》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・決まった内容をしっかり守ってもらえないと引き受けたくない。</li> <li>・引き受けた側にメリットがないと嫌だから、逆に得する部分があると納得いく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・誰もやりたくないことを引き受けてもらうには周りの協力が必要不可欠であることに気付かせ、それをもう一度見直す。</li> </ul> <p>☆きまりを作ったり守ったりする理由について深く考えようとしている。(視点2-⑦)</p>
<p>終末</p>	<p>(4) 学習のまとめをする。</p>	<p>(感想を記入)</p>	

### Ⅲ. 授業の工夫についての考察

#### 1. 1人1台端末を活用し、自分の考えを表現できるようにする

今回、話し合いの形式をこのように意見を付箋を使って行ったことで普段話し合いを活発にすることが苦手な生徒も、紙に書いてから発表したり、ほかの人に読んでもらったりすることで、自然と自分の意見を発表することができていたように思える。また、記録として話し合いの内容が残るため、自分自身の考えの変容の様子が変わりやすいというメリットもある。考えの変容がどの部分で起こったかがわかれば生徒自身がほかの人のどの意見でそのように考えたかを見直すことができる。また教師自身も再びその授業をするときにどのような発言があれば話し合いが活発になりやすいかということ想定しやすくすることもできると考える。それにより授業者の授業力向上を図ることもできると考えられる。

また、話し合いの内容を画像として保存し、すべての班の話し合い内容を共有することもたやすくできるようになる。今回の実践では大変だった準備もこのようなツールが使えるようになれば、従来の全体での話し合いや、班の話し合いのほかに、新しい話し合いの形として授業に応じて活発に話し合いができる手段となるのではないかと考えられる。

#### 2. 他者の目線に立って話し合いを進めることで、多面的な目線をもてるようにする

自分自身の意見を発表する際、どうしても、客観的に物事を見すぎてしまい、模範解答のような意見が出て終わってしまうことがある。それに対し、自分自身に置き換えて自分の意見として話し合いを試みることで、その模範解答的な答えでは納得がいかなかったり、引っかかってしまったりする部分に気付くことができた。また、自分自身の意見に似ている人の考えに寄り添うだけだと、多面的・多角的な考え方とは言えないが、自分の考えと異なる人の立場に立って話し合いをすることで、他の視点からはどのように感じるのかということをもっと理解することができたのではないかと考えられる。

今回の実践においてはその後にもう一度どうすればいいかを考えるときにも、ほかの視点から考えたことで、どの視点でも大変なことを集団でうまく成り立たせるためには、みんなが納得できるような方法を目指すために、きまりやルール・マナーが必要でそれを守らなければいけないという公共の考え方ができるようになったのではないかと考えた。